

# 令和 6 年度アスベスト大気濃度調査検討会

## 議 事 録 概 要

### 1. 日 時

令和 6 年 2 月 13 日（木）16：00 ～ 18：00

### 2. 場 所

Web 会議形式

### 3. 出席者

- （座長） 山崎淳司座長  
（委員） 貴田晶子委員、小西淑人委員、寺園淳委員、豊口敏之委員、  
濱脇亮次委員  
（環境省） 環境汚染対策室 鈴木室長  
中澤室長補佐  
桑原室長補佐  
伊藤係員  
古濱専門委員  
（事務局） 株式会社環境管理センター

### 4. 議 題

- （１）令和 6 年度アスベスト大気濃度調査結果について  
（２）令和 7 年度アスベスト大気濃度調査計画について  
（３）その他

### 5. 配付資料

- 資料 1 令和 6 年度アスベスト大気濃度調査結果について  
資料 2 令和 6 年 1 月 能登半島地震災害時調査結果の報告  
資料 3 令和 6 年度アスベスト大気濃度調査計画(案)について

参考資料 1 アスベスト大気濃度調査検討会設置要綱

参考資料 2 解体現場の地点図及び現場写真【委員限り】

※本年度より、豊口敏之委員が検討会へ参加された。

●議題（１）：令和６年度アスベスト大気濃度調査結果について

＜事務局より、令和６年度調査の結果について報告＞

【解体現場 No36 について】

✓ クリソタイルを除去している現場だが、セキュリティーゾーンで検出したアスベストの種類が、クリソタイルとアモサイトの２種類であった。頂いた資料の看板を見ると、この建物で配管の保温材の除去もされており、そちらにはアモサイトが入っている。当日は、クリソタイルの除去作業だけで、アモサイトの除去は行っていなかったという認識でいいか。（豊口委員）

⇒今回、対象となる吹き付け材はクリソタイルのもので、アモサイトのものは作業対象ではない。その部屋で使用されたのかどうかまでは分からないが、除去後のアモサイトが浮遊して、それが付着したものだと推察しています。（事務局）

✓ 考えられるのは、廃棄物は現地で保管していると思うので、そこからの汚染がないのかについてと、もう一つは、同じ集じん排気装置を使っているとすれば、集じん排気装置のフィルターへの付着や汚染はなかったのかが気になる。（豊口委員）

⇒その可能性は捨て切れない。（事務局）

【解体現場 No45 について】

✓ 現地で立ち会いを少し話をしましたが、もとは４階建ての建物で、集じん排気装置を４台使って工事をする計画だったものが、現地で３台しか使われていなかった。また、集じん排気装置の設置場所などいろいろなものが、当初の計画と変わっているため、変更の届け出をしっかりと出されて工事をされているのかを質問をした。その辺りの確認はどうだったのか教お教えてほしい。（豊口委員）

⇒今回の管理区画の容積と、設置されている集じん機の台数が変更されたので、変更部分の管理区画の容積と、負圧機の換気能力を記載した資料を除去業者から頂いた。その中では、３台で管理区画を１時間当たり４回換気できるほどの能力を有しているという内容であった。工事看板と台数が違ったことについては、併せて石川県に報告し、そちらで指導を行ってもらった。（事務局）

✓ 換気回数や排気量もそうだが、そもそも集じん排気装置を各フロアに設置している。今回は２階のフロアでの除去だったが、建物内が階段で縦に突き抜けた形でそこは養生していないという話だった。実際に工事をしているときに、２階の除去工事で飛散したものが、１階や３階に回り込む可能性がないのか、４階での除去をする際に４階には集じん排気装置がないので、適切な排気ができているのかが気になった。今回の作業中には飛散していなかったということだが、そこは行政の方にもいろいろと理解してもらった上で、現地の指導をしていただきたい。あとは、工事の事業者だけではなくて、実際に元請けになっていて、下に発注している業者もしっかりと管理してもらったほうが良いのではと、現地で感じた。（豊口委員）

### 【現地での記録内容について】

- ✓ 解体現場で、例えば No.37 や No.38 の文章の中で、ビニールカーテンチャック付きと記載があるが、出入り口のビニールカーテンのチャックが閉まっていたのか、開いていたのかが書いていない。全て閉めていて負圧がこれだけあるという場合についてです。例えば No.37 の場合は、マイナス 6 パスカルからマイナス 10 パスカルと書いてあるが、チャックを閉めた状態での負圧だったのか。そうであれば、作業者の出入りするときにチャックを開けますが、負圧は低下する。この中からそういうことが読み取ることができない。チャックが閉まっていたのか、開いていたのかの文章に変えてほしい。セキュリティーゾーンの出入り口で、出入りのときに、作業室内の負圧がどうだったのかが分かれば、教えてもらいたい。

集じん排気装置のフィルター交換を測定前に行っていたと記載がある。これは 1 次フィルター、2 次フィルターの両方とも交換していたのか、1 次フィルターだけだったのかなどを記載してもらいたい。また、No.41 の集じん排気装置について、事前調査のシートに記載しているはずなので、設置時の点検初期濃度と、漏えい監視用の基準濃度が分かれば、全て教えてほしい。検討会資料内には、そのこともしっかりと書いてもらったほうが、委員が考えるときに、いろいろと分かりやすいため考慮してほしい。(小西委員)

⇒チャック付きのビニールカーテンについて、測定時は、基本は開いていた。ただし、作業員が昼休みに入るときなどは閉めていた。

続いて、フィルター交換のタイミングについてですが、今回は記載することができなかったが、フィルター交換の様子について、1 次フィルター、2 次フィルターの両方で行ったのか確認はできていない。また、集じん排気装置の初期濃度と稼働後の濃度については、記録を取っている業者と、別の測定業者に委託しており、こちらで確認できなかったものが 2 通りある。(事務局)

- ✓ 事前調査のところを補足する意味で、事前チェックリストを記載してもらわなければ、何とも言えないため、しっかり確認し記載してほしい。(小西委員)

⇒現場担当者へ周知する。(事務局)

### ●議題 (2)：令和 6 年 1 月 能登半島地震災害時調査結果について

<事務局より、令和 6 年 1 月 能登半島地震災害時調査結果について報告>

- ✓ 調査地点についてです。別途、仮置き場等での測定はしているか。作業員への曝露や、現地では高い濃度になるかもしれない部分の測定として、重要である。(寺園委員)

⇒弊社では仮置き場の測定は実施していない。石川県庁と地点を相談した上で、弊社は現地状況の調査を行う事となった。(事務局)

⇒仮置き場の調査については、環境省では調査していない、仮置き場については今回の地震においては、それぞれの市町で設置、管理し仮置き場の測定も実施していると聞いている。今のところ、特に問題ある数値は検出されていないとのこと (環境省)。

- ✓ 確かに市町単位になっていますが、かなりのボリュームの災害廃棄物が集中する。現地で最も高いかもしれないアスベスト濃度を測るために、極めて重要な場所である。測り方によっては高い濃度が出るか可能性もある。そういう所でしっかりと濃度を押さえておくことが現

地の安心につながる。阪神・淡路大震災から 30 年を経て、被災地でもアスベスト濃度を管理することについて、市町と県だけではなくて、国でもしっかりと押さえていただきたい。(寺園委員)

●議題(3)：令和7年度アスベスト大気濃度調査計画案(案)について

＜事務局より、令和7年度アスベスト大気濃度調査計画案について報告＞

- ✓ 本年も(株)ノザワ フラノ工場(旧北海道工場)の調査が無かったが、工場が稼働していないからということだが、来年度は稼働するかどうか分かっているならば教えてほしい。

(貴田委員)

⇒現在、情報はなく現状は止まっている。稼働すれば、調査を実施する。(環境省)

- ✓ 令和7年度の計画案について、おおむねこれで良いと思う。継続調査地域の重要性は理解している。まだ稼働する可能性がある事業所や、蛇紋岩地域、処分場のモニタリングを継続する意義はあると思う。一方で、メインの発生源が解体現場に移行してきており、かつ災害関連である。業務の軸を解体現場に移行できている。ただし、この検討会では、基本的に濃度を測ることが主眼にあるが、対策につなげるために、なぜその濃度になっているのかについても考えていく必要がある。

事務局が現場を対応した際、情報が得られなかった事が多々あったが、重大な問題であれば、そこを見逃してはいけないと思う。現状、直ちに次の法改正につながる部分がどこなのかは、まだ定まっていないと理解しているが、改善につなげるような濃度測定をしてもらいたい。地点についても、災害現場の被災地の継続はしてもらいながら、仮置き場についても希望する。

(寺園委員)

今までの調査において、除去業者のかたがたの認識が不足しているのではないと思う。業種の中に新たに除去業というがあり、そこの技術指導が行えるような形になればいいと思う。これは環境省、厚生労働省、国土交通省に関わることもかもしれないが、問題が続いており、漏えい事故が無くならない。技術的な問題がある可能性が高い。今後の検討課題と踏まえていただきたい。(貴田委員)

●議題(4)：その他

- ✓ これは事務局にお願いすることでもなく、検討会から少しずれた話かもしれないが、環境省にお願いしたいことが一つある。養生確認における立ち入り検査について、漏えいを立ち入り検査で未然に防げと思っている。現在、地方自治体の職員が不足しており、立ち入り検査は若手中心になる自治体も多くなっている。広島県もそうだが、その場合に環境省や事務局から技術の底上げを、この場を借りてお願いしたい。(濱脇委員)

【閉会】

以上